

館内語り部・防災ワークショップ

館内語り部・防災ワークショップにご興味をもちいただき、ありがとうございます。当館で「語り部」を務めています、川崎と申します。私は当時、中学生だった際に被災し、県外の大学に進学後、釜石の地に戻り、当館に勤めています。本プログラムでは、館内若しくは、人数が多い場合は周辺の施設等にて私の経験をお伝えしています。

また、防災ワークショップは東日本大震災の経験を活かした内容となっております。



「震災を風化させたくない。」

2021年3月11日で、震災発生から10年を迎えました。その間に、街は復興に向かい、私たちは元の生活を取り戻しつつあります。しかし、あの日の出来事を風化させ、更なる悲劇を生むことは避けなければなりません。その使命の下、私たちはこの「いのちをつなぐ未来館」を運営しています。私たちはそんな背景から、震災の出来事を語り続けます。

館内語り部

「自然災害は必ず来る。その被害を少しでも減らす助けになりたい。」

自然災害は誰もが遭遇する可能性のあるものです。しかし、いつ来るか分からない脅威に対して、準備に万全を期することはとても難しい。一方で、災害に備えることで減らせる被害は、必ずあります。私は自らの経験から、その備える大切さを実感しています。私がリアルな経験をお伝えすることで、皆さんが身近な災害の可能性について少しでも考えるきっかけにさせていただけたら幸いです。

「安否札づくり」

安否札とは、災害発生時に自宅より避難する際、玄関口等に掲示し、避難したことを家族や地域の方に知らせる札のことです。東日本大震災時、釜石東中学校の生徒が作成し、住民に配布した安否札で、実際に命を救われた方がいました。本プログラムでは、実際に安否札を作成しお持ち帰りいただけます。

小学校低学年から大人まで、防災意識が高められ、すぐに実践出来るプログラムになっています。



防災ワークショップ

「究極の防災リュック」

実際に避難生活をしたスタッフから、避難生活であるとい物・避難生活での知恵など紹介しながら、皆さまと防災リュックに詰めるものべきものを考えます。個人によって、必要な物が異なりますので、自分にとって究極の防災リュックを一緒に考えてみましょう。小学校低学年から大人まで、防災意識を高められ、災害に備える力を付けることが出来るプログラムになっています。



詳しい料金・申込方法に関しては、ホームページに掲載の「申込要項」および「申込書」をご参照ください。